



# 会社概要 (2015年12月31日現在)

会社名	横浜ゴム株式会社	株主数	12,501名
創立	1917年10月13日	発行済み株式総数	169,549,081株
資本金	38,909百万円	連結対象子会社数	122社
売上高	629,856百万円(2015年度)	持分法適用会社数	1社
決算期	12月31日	上場証券取引所	東京、名古屋
代表取締役会長	南雲忠信	事業を展開している国・地域	日本、米国、カナダ、オーストラリア、ドイツ、フィリピン、ベトナム、中国、タイ、ロシアなど
代表取締役社長	野地彦旬	URL	<a href="http://www.y-yokohama.com">http://www.y-yokohama.com</a>
本社所在地	〒105-8685 東京都港区新橋5丁目36番11号		
従業員数	22,187名(連結)		

## ● 主要製品

### タイヤ

乗用車用、トラック・バス用、小型トラック用、建設車両用、産業車両用などの各種タイヤ・チューブ、アルミホイール、自動車関連用品

### MB\*

コンベヤベルト、空気式防舷材、マリンホース、橋梁用ゴム支承、ハイウェイジョイント、産業用空気ばね、各種高圧ホース、カップリング、シーリング材、ウレタン塗膜防水材、各種接着剤、電子材料(コーティング材、LED封止材)、航空部品(ラバトリーモジュール、ウォータータンク、カップリング)

※マルチプルビジネスの略。「多角化し、拡大する事業」の総称。

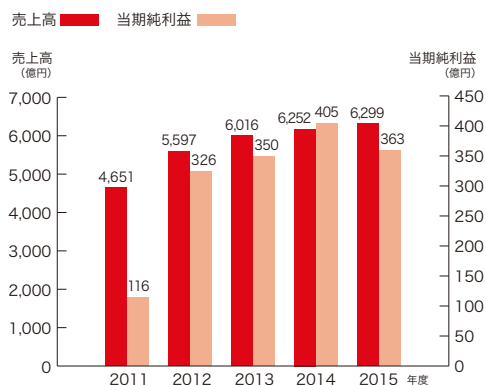
### その他

スポーツ用品、情報処理サービス、不動産賃貸など

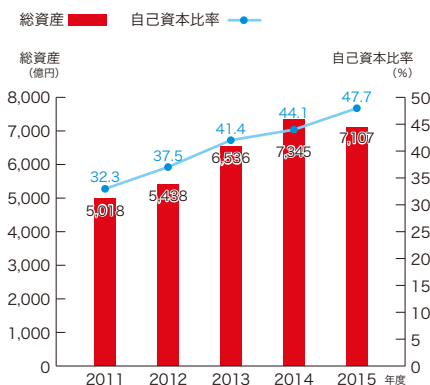
## ● 事業展開地域



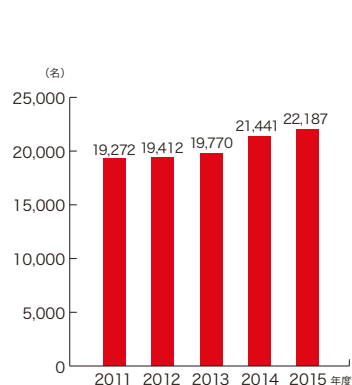
## ● 連結売上高・当期純利益



## ● 連結総資産・自己資本比率



## ● 連結従業員数





企業理念 (1990年制定)

— 基本理念 —

心と技術をこめた  
モノづくりにより  
幸せと豊かさにご貢献します

— 経営方針 —

- 技術の先端に挑戦し、新しい価値を創り出す
- 独自の領域を切り拓き、事業の広がりを追求する
- 人を大切にし、人を磨き、人が活躍する場をつくる
- 社会に対する公正さと、環境との調和を大切に

— 行動指針 —

- 自らを鍛え、自己ベストに挑戦する
- たがいに信頼し合い、ぶつかり合い、高め合う
- 外に向けて開かれた心を育てる

— 企業スローガン —

「すごいをさりげなく」

CSR経営ビジョン (2008年制定)

社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業になる

— CSR行動指針 —

- 変化し続ける社会動向をつかむ
- 貢献できる課題を見極める
- 迅速に行動しゆるぎない信頼を得る
- 一人ひとりがCSR当事者として行動する

横浜ゴムグループ行動指針 (2014年改訂)

1. 社内外を問わず人権を尊重します
2. 安全で健康な職場をつくります
3. 地球環境との調和を図ります
4. 安全・高品質な製品・サービスを提供します
5. 透明性の高い企業活動を行い、適切に情報を開示します
6. 法令のみならず社会規範を守ります
7. 地域社会との共存共栄を図ります

中期経営計画グランドデザイン 100 (GD100)

ビジョンと基本方針

創業100周年にあたる2017年度に企業価値・市場地位において、独自の存在感を持つグローバルカンパニーを目指します

長期財務目標 (2017年度)

売上高：7,700億円 営業利益：800億円 営業利益率：10.4%

基本方針

良いモノを、安く、タイムリーに  
トップレベルの環境貢献企業になります  
高い倫理観を持ち、顧客最優先の企業風土を作り上げます

(2015年改訂)

環境GD100

基本方針

経営方針に示された「社会に対する公正さと、環境との調和を大切に」を規範として、トップレベルの環境貢献企業になる

- 環境経営を持続的に改善します
- 地球温暖化防止に取り組みます
- 持続可能な循環型社会実現に貢献します

(2006年制定)

創業の精神

- 一、生産事業は社会奉仕なり。すなわち人類生活の幸福増進を目的とするものなるがゆえに、良品を廉価に、便利なるものを提供するを目的とすべし。
- 二、優秀品を提供することを根本方針とし、また他の追従を許さざることを生命とすべし。
- 三、経営はあくまで公平親切を旨とすべし。公明正大なる経営者は資本に対する保証、労働者に対する分配、消費者に対する義務を公平に、いわゆる合理的分配を行うことによって、その任務とすべし。
- 四、機械力を充実して従業員をなるべく少なくすべし。これ能率向上の主要諦なり。
- 五、事業の成否は一生懸命熱心に勉強して、互いに向上発展を期せんとする努力の大小によるものなるがゆえに、大努力を試みるべし。